所　員

専任教員

時田　アリソン　TOKITA Alison
　役職：所長
　専門：音楽学・日本の語り物芸能

藤田　隆則　FUJITA Takanori
　役職：教授
　専門：民族音楽学

山田　智恵子　YAMADA Chieko
　役職：教授
　専門：音楽学・三味線音楽・義太夫節

田鍬　智志　TAKWA Satoshi
　役職：准教授
　専門：日本音楽史・民俗芸能

竹内　有一　TAKEUCHI Yuuichi
　役職：准教授
　専門：日本音楽史・近世邦楽

武内　恵美子　TAKENOUCHI Emiko
　役職：准教授
　専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

客員教授

安田　登　YASUDA Noboru
　専門：能楽師（ワキ下掛宝生流）

非常勤講師

薗田　郁　SONODA Iku
　担当：特別研究員
　専門：近代芸能史

竹内　直　TAKEUCHI Nao
　担当：特別研究員
　専門：現代音楽論・日本近代洋楽史

出口　実紀　DEGUCHI Miki
　担当：特別研究員
　専門：日本音楽史・民俗音楽

東　正子　HIGASHI Masako
　担当：情報管理員
　専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

非常勤嘱託員

齊藤　尚　SAITO Hisashi
　担当：学芸員・司書

森　万由美　MORI Mayumi
　担当：司書

異動のお知らせ

2018 年 3 月、任期満了により退職
　時田　アリソン（所長）
　山田　智恵子（教授）
2018 年 4 月より新任
　渡辺　信一郎（所長）
　齋藤　桂（専任教員／講師）
　山田　智恵子（客員教授）

客員研究員

大西　秀紀　ONISHI Hidenori
　2016 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日
　研究課題：近代日本音楽の音源資料に関する研究
　受入教員：竹内有一

神津　武男　KOZU Takeo
　2017 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日
　研究課題：浄瑠璃本に見る人形浄瑠璃上演史の研究
　受入教員：山田智恵子

高橋　葉子　TAKAHASHI Yoko
　2017 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日
　研究課題：能の謡と囃子の歴史
　受入教員：藤田隆則

丹羽　幸江　NIWA Yukie
　2017 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日
　研究課題：祝詞の音楽的研究
　受入教員：藤田隆則

前島　美保　MAESHIMA Miho
　2016 年 4 月 1 日～ 2018 年 11 月 9 日
　研究課題：歌舞伎囃子に関する劇書・伝書の研究
　受入教員：竹内有一

共同研究員

計 53 名（所員を除く外部研究員）。

氏名・所属先等は「活動報告 1」に掲載。

委託研究

委託者：上野正章

委託テーマ：大正初期『京都日出新聞』芸能記事のデータベース化

内容：『京都日出新聞』（現『京都新聞』の前身）の大正初期の芸能記事から、主に能楽関係の記事を調査研究、収集して、それをデータベース化する。研究成果の一部は、インターネットにより公開する。

展　観

会場：新研究棟 7 階展示スペース

(1)「日本の楽器」

平成 29 年 8 月 14 日（月）～平成 29 年 12 月 8 日（金）

内容：でんおん連続講座 E「PENDULUM Ⅲ 英語による日本音楽概論」の開催に際し、講座内で解説する日本の楽器を展示しました。

展示内の解説は日本語ですが、英語による展示解説を配布しました。

一部の楽器については無線 LAN にて音声データを配信し、各自の携帯端末で楽器の音を聴けるようにしました。

(2)「京都と人形浄瑠璃」

平成 29 年 12 月 14 日（金）～平成 30 年 4 月 16 日（月）

内容：人形浄瑠璃は現在では国立文楽劇場がある大阪が中心になっています。しかし人形浄瑠璃が誕生したのは、実は安土桃山時代末から江戸時代初めの京都でした。後に大坂に出て「義太夫節」を創始した竹本筑後掾（初代義太夫）が、浄瑠璃の太夫としてデビューしたのが京都であったことも、人形浄瑠璃の中心が京都であったことを示しています。

この展示では京都と人形浄瑠璃の結び付きを、浄瑠璃本や地図、写真、番付など様々な資料を用いて紹介しています。

企画・構成：神津武男（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）

京都と人形浄瑠璃　展示風景

出版物【書籍】

『日本伝統音楽研究第』14 号

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター発行、2017 年 6 月 30 日、A4 横組・縦組 136p.

内容〈論文〉武内恵美子「岡山藩学校と浦上玉堂の雅楽知識」

時田アリソン ‘The Formation of Modern Musical Identity in Japan, Korea and China through the Art Song’

〈研究ノート〉

高橋葉子「近代能楽観世流のフシの統一　―ウキをめぐって―」

梶丸岳「掛唄で歌われることはなにか（2）―計量テキスト分析による掛唄の話題分析の試み―」

山寺美紀子・山寺三知「鄭珉中著　正倉院の「金銀平文琴」について―中国の宝琴・素琴の問題を兼ねて―（その一）」

彙報、活動記録 1 プロジェクト研究・共同研究、活動記録 2 特別研究員、活動記録 3 専任教員

大学院　音楽研究科修士課程　日本音楽研究専攻

出版物【DVD】

『浦上玉堂と催馬楽～江戸時代の催馬楽と『玉堂琴譜』の催馬楽・復元演奏比較～』（DVD）

編集・発行所：京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

2018 年 03 月 31 日発行、定価：￥1,000、132 分、解説冊子付。

本DVDは平成29年3月に開催された第47回公開講座『浦上玉堂と催馬楽〜義江戸時代の催馬楽と『玉堂琴譜』の催馬楽・復元演奏比較〜』の模様の録画を収録。また、公開講座で配布された解説冊子も付属しています。

第48回公開講座

「スタンフォード大学/京都市立芸術大学共同事業：インターメディアとしての能―能《半蔀》《小鍛冶》公開収録」

平成29年度第一回公開講座

企画・司会：藤田隆則

日時：平成29年6月15日（木）　午後0時30分〜午後5時

会場：金剛能楽堂（京都市上京区烏丸通一条下る龍前町590）

出演：金剛龍謹（能楽シテ方金剛流）、宇高竜成（能楽シテ方金剛流）ほか

監修：金剛永謹（金剛流宗家、京都市立芸術大学客員教授）

内容：能は、謡、囃子、舞、演技、衣装、面、舞台上の移動等、様々な要素が複雑に重ね合わされている演劇です。このあり方を詳細に分析し、ウェブ公開することを目指して、スタンフォード大学と本学との間で、共同研究が進行中です。

本公開講座は、ウェブ上に公開予定の能2番（「半蔀（はしとみ）」「小鍛冶（こかじ）」）の公開収録を行うものです。

あわせて金剛永謹氏（金剛流宗家、本学客員教授）ほかのお話も予定しています。

皆様の御参加をお待ちしております。

第49回公開講座

「地方に息づく京都祇園祭の芸能―遠州森町山名神社の舞もの―」

企画・司会：田鍬智志

日時：平成29年9月17日（日）　午後12時30分〜16時（正午開場）

会場：京都市男女共同参画センター　ウィングス京都（京都市 中京区東洞院通六角下る御射山町262）

出演：山名神社天王祭舞楽保存会のみなさん、屋台囃子のみなさん

講演：加藤雄一（森町教育委員会社会教育課文化振興係）、北島惠介（森町教育委員会社会教育課技官）、藤川桐人（大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻）

内容：こんにち、京都祇園祭の稚児といえばもっぱら儀礼的行事にのみ参与しますが、中世の祇園祭は稚児が大活躍！稚児の曲芸が呼び物の一つでした。

静岡県周智郡森町飯田の山名神社天王祭（祇園祭）。当地の稚児の舞「舞もの」は、中世京都の祇園祭の姿を今に伝えるもので、室町時代中期の明応5年（1496）に摂津・四天王寺から伝えられたものと言い伝えられています。舞楽というよりは舞楽や能の要素を取り入れた風流の舞で、京都祇園祭の中世的芸能要素を持った舞といえます。鶴やカマキリなど動物のかぶり物の舞、柱に逆さによじのぼるアクロバティック芸や無言劇的要素もとりいれた舞など、あの手この手で祭りを訪れる人々の目を楽しませます。毎年7月中旬の土日に行われる祭りの2日間、神社境内舞殿にて演じられます。また、祭には豪華な屋台8台の引き回しも行われたいへん賑わいます。

本場京都祇園祭ではみることができなくなって久しい稚児の曲芸、また威勢の良い屋台囃子をたっぷりご堪能ください。皆様のご来場をお待ちしております。

第 50 回公開講座

「義太夫節通し狂言の復曲 第二回」

演奏者：鶴澤三寿々（東京音楽大学他　非常勤講師・一般社団法人義太夫協会正会員）、竹本駒之助（女流義太夫人間国宝、急病のため休演）

日時：平成 30 年 2 月 4 日（日）　午後 1 時開演（午後 0 時 30 分開場）

会場：京都市男女共同参画センター　ウィングス京都（京都市 中京区東洞院通六角下る御射山町 262）

講演者：山田 智恵子、神津武男（京都市立芸術大学客員研究員･早稲田大学演劇博物館招聘研究員）

内容：日本伝統音楽研究センター山田智恵子教授の退任を記念して開催する本講座では、研究成果に関するお話と、女流義太夫節の人間国宝であり本学の客員教授でもある竹本駒之助師により、伝承を失った義太夫節の音楽の復元演奏をします。

■義太夫節の音楽学的復元に関する研究報告

■演奏『祇園祭礼信仰記』二段目切「けし畠の段」

■「復曲について」演奏者と研究者による座談会

■『祇園祭礼信仰記』作品解題

第 51 回公開講座

「日本･イタリア　二つの語り物　Singers of Tales in Italy and Japan」

日時：平成 30 年 2 月 11 日（日）　午後 1 時 30 分開演（午後 1 時開場）

会場：京都市男女共同参画センター　ウィングス京都（京都市 中京区東洞院通六角下る御射山町 262）

内容：時田アリソン所長の長年の研究テーマである「語り物」は、平家物語、浄瑠璃、民俗芸能のゴゼ歌、そして明治時代に誕生した浪花節に代表されるものです。本講座はその芸能の社会的意義と価値を検討し、日伊両国の事例等を踏まえた国際的視野に立った講演の他、常磐津節と浪花節の演奏も行い、日本独自の語り物の特徴の理解を深める試みです。

■講演

・ フランシス・ビッジ（ジュネーブ高等音楽院教授）
『“クロリンダの刀” ―イタリアの軍記語り とその語り手、今昔』

逐次通訳（英日）：青嶋 絢（大阪大学大学院文学研究科博士課程）

・ 時田アリソン（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長）
『日本の語り物と世界の語り物』

■実演

・ 常磐津節『将門』

浄瑠璃：常磐津 小文字太夫（急病のため代演に都代太夫）、常磐津 若音太夫

三味線：常磐津 都垓蔵、常磐津 都史

・ 浪花節『お民の度胸』

浪曲師：玉川 奈々福　曲師：沢村 さくら

でんおん連続講座

でんおん連続講座 A「音楽としての義太夫節」

講師：山田智恵子、〈第 1 回ゲスト〉神津 武男（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

開催日：平成 29 年 5 月 10 日水曜日～ 7 月 12 日

水曜日（期間内の毎水曜日・全 10 回）
時間：午後 1 時 00 分〜午後 2 時 30 分
会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター合同研究室 1（新研究棟 7 階）
内容：この講座では、ことば（詞章）と旋律の関係に着目し、音楽としての義太夫節にスポットを当てます。今回は並木宗輔絶筆の作品で、本年が没後 250 年にあたる豊竹筑前少掾初演の『一谷嫩軍記』三段目切「熊谷陣屋段」を取り上げる予定です。

でんおん連続講座 B「能の囃子・音曲の骨組みを理解する」

講師：藤田隆則
開催日：平成 29 年 5 月 10 日水曜日〜 7 月 5 日水曜日（期間内の毎水曜日・全 8 回 ※ 6 月 14 日（水）を除く）
時間：午前 10 時 40 分〜午後 12 時 10 分
会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター合同研究室 1（新研究棟 7 階）
内容：室町時代に成立した能。数時間にもおよぶ力のこもる演技をしっかりと受けとめるためには、謡の内容理解に加え、囃子や音曲の理解も必要です。

今回は能一番の小段の流れに焦点をあてて、音曲面の組立ての理解を試みます。能の鑑賞歴・稽古歴は長くても「わかった」という実感が得られないと感じられる方、音楽面への関心がある方、是非受講してください。

連続講座 C「琴の諸相と京都の琴 3」

講師：武内　恵美子
開催日：平成 29 年 5 月 13 日土曜日〜 6 月 24 日土曜日（期間内の隔週土曜日・全 4 回）
時間：午後 1 時 00 分〜午後 4 時 10 分
会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター合同研究室 1（新研究棟 7 階）
内容：昨年度の連続講座 G「京都の琴 2」に引き続き、琴（キン / 七弦琴 / 古琴）の持つ特徴的で魅力的な世界観を紹介します。毎回、講義と体験実習を行います。

講義では、（1）琴の様々な文化的側面を学びつつ、（2）各回 1 曲、琴の代表的な曲を取り上げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞します。また、（3）江戸時代に京都で活躍した琴士を、各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の世界を紐解いていきます。

体験では、受講者の進捗に合わせて指導します。初めて触れる方でも大丈夫です。多少経験がある方でも、是非御参加ください。ただし、体験ですので、中級以上の方への実技指導は致しかねます。詳細はお問い合わせください。

※楽器は用意しますが、人数によっては複数で 1 張を御使用いただく場合があります。琴を所有されている方は御持参くださっても構いません。

でんおん連続講座 D「常磐津節実践入門 その 5」

講師：常磐津 若音太夫（竹内 有一）

開催日：平成 29 年 5 月 16 日火曜日～ 8 月 8 日火曜日（期間内の隔週火曜日・全 7 回）

時間：午前 10 時 40 分～午後 12 時 10 分

会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター　合同研究室 1（新研究棟 7 階）

内容：京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し、江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の構成や特徴、表現技法を考察しながら、浄瑠璃（語り）と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。

でんおん連続講座 E「PENDULUM III　英語による日本音楽概論」

講師：時田アリソン

開催日：平成 29 年 8 月 15 日火曜日～ 8 月 17 日木曜日（全 3 日）

時間：午前 10 時 00 分～午後 5 時 00 分（昼休憩を含む）

会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター　合同研究室 1（新研究棟 7 階）

内容：古くから現在まで伝承されている日本の音楽とその近代的発展を、英語による講義で紹介します。英語で日本音楽をどう説明すればよいか、日本人と留学生が一緒に考えながら、手軽に日本の音楽文化について大まかな理解を得ることを目指します。

雅楽・声明・そして語りの音楽（平家・浄瑠璃）と演劇（能・文楽・歌舞伎）との関係や、器楽（三味線・箏・尺八）について講義に加え、体験的なワークショップを行います。

＊この講座は英語で行います。

でんおん連続講座 F「三味線音楽研究―町田佳聲をめぐって―」

講師：山田智恵子、小塩さとみ（宮城教育大学教授）、大久保真利子（福岡国際大学非常勤講師）、寺田真由美（相模女子大学非常勤講師）、野川美穂子（東京藝術大学非常勤講師）、配川美加（放送大学非常勤講師）吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）、大西秀紀（日本伝統音楽研究センター客員研究員）、薦田治子（武蔵野音楽大学教授）、廣井榮子（大阪教育大学非常勤講師）

開催日：平成 29 年 9 月 8 日金曜日・9 月 9 日土曜日・9 月 16 日土曜日（全 3 日・9 コマ）

時間：午前 10 時 30 分～午後 0 時、午後 1 時～午後 2 時 30 分、午後 3 時～午後 4 時 30 分

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1、

9月9日のみ「kokoka 京都市国際交流会館」第3会議室

内容：この講座では、伝音センタープロジェクト研究「歴史的音源から見る三味線音楽の音楽的研究 – 町田佳聲とその周辺」の成果公開を目的として、町田佳聲、三味線音楽、レコード、旋律型研究などをキーワードに各共同研究員の研究テーマによる口頭発表を行う予定です。

でんおん連続講座 G「常磐津節実践入門 その 6」

講師：常磐津 若音太夫（竹内 有一）

開催日：平成 29 年 10 月 24 日火曜日～ 12 月 19 日火曜日、平成 30 年 1 月 23 日火曜日～ 3 月 20 日火曜日（期間内の隔週火曜日）

時間：午前 10 時 40 分～午後 12 時 10 分

会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター合同研究室 1（新研究棟 7 階）

内容：京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。古典曲を題材に、作品の構成や特徴、表現技法を考察しながら、浄瑠璃（語り）と三味線、それぞれの演奏体験を深めます。

でんおん連続講座 H「カラダで検証する雅楽研究 その 1」

講師：田鍬智志ほか

開催日：平成 29 年 12 月 9 日土曜日午後 1 時 00 分～午後 4 時 10 分、平成 29 年 12 月 10 日日曜日午前 10 時 40 分～午後 4 時 10 分

会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター合同研究室 1（新研究棟 7 階）

内容：田鍬智志主宰の雅楽研究会メンバーによるリレー講座。机上で考えるだけでなく、弾いたり、吹いたり、カラダで検証してみます。

でんおん連続講座 I「京都の琴 その 4」

講師：武内 恵美子

開催日：平成 30 年 1 月 13 日土曜日～ 2 月 10 日土曜日（期間内の隔週土曜日）

時間：午後 1 時 00 分～午後 4 時 10 分

会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター合同研究室 1（新研究棟 7 階）

内容：今年度前期連続講座 C「京都の琴 3」に引き続き、琴（キン / 七弦琴 / 古琴）の持つ特徴的で魅力的な世界観を紹介します。毎回、講義と体験実習を行います。講義では、（1）琴の様々な文化的側面を学びつつ、（2）各回 1 曲、琴の代表的な曲を取り上げて、曲目の背景や内容について解説した上で鑑賞します。また、（3）江戸時代に京都で活躍した琴士を、各回ひとりずつ取り上げて紹介し、京都における琴の世界を紐解いていきます。

体験では、受講者の進捗に合わせて指導しますので、初めて触れる方でも大丈夫です。多少経験がある方にも御参加いただけますが、体験ですので、中級以上の方への実技指導は致しかねます。詳細はお問い合わせください。

※楽器は用意しますが、人数によっては複数で 1 張を御使用いただく場合があります。琴を所有されている方は御持参ください。

伝音セミナー

◇第１回　５月 11 日木曜日　大西秀紀

「京都のうた（その 3)」

「京都のうた」の３回目は、京都府下の「峰山小唄」「綾部小唄」「八木音頭」「久美浜節」といった御当地ソングを始め、「市立葵小学校校歌」「京都市消防の歌」「京都市歌（オーケストラ版)」、宮川町「京おどり」のフィナーレを飾る「宮川音頭」などをお聴き頂きます。
※曲目を追加・変更する場合があります。

◇第２回　６月１日木曜日　田鍬智志

「雅楽の今昔―復元・再現演奏を聴く―（その 2)」

日本の雅楽は長い伝承の間、盛衰を経て今日に至っています。それぞれの時代の雅楽はどのような音楽なのでしょうか。といっても古楽譜解読の結果立ち現れる音楽は、解読する人によりかなり違ってきます。さまざまな研究者・演奏者による復元・再現演奏を聴いてみます。

◇第３回　７月６日木曜日　竹内直

「日本の作曲家を聴く（その 3）～レコード「『平家物語』による群読 知盛」を聴く」

今回は、作曲家の佐藤慶次郎が音楽を担当したレコード「『平家物語』による群読 知盛」を聴きます。群読とは、一人ないしは複数の読み手による音声表現であり、演劇的な要素を含みます。古典作品の群読と佐藤慶次郎の音楽が織りなす世界を紹介します。

◇第４回　９月７日 木曜日　武内恵美子

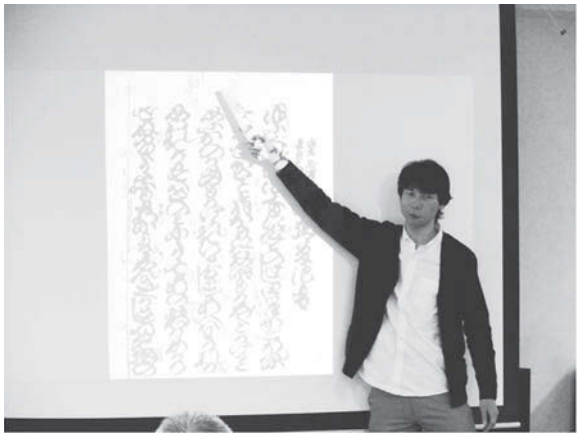
平成 29 年度 第４回伝音セミナー　『玉堂琴譜』と催馬楽再考

昨年度の伝音セミナーおよび公開講座でも取り上げました浦上玉堂の琴曲化催馬楽譜『玉堂琴譜』について、再度まとめて検討し、それぞれの復元演奏を比較してお聞きいただきます。

◇第５回　12 月 14 日木曜日　林　一行

「新内節の魅力に迫る～初めて好きになった日本の伝統芸能」（修士審査プレゼンテーション）

新内節は三味線にのせて物語を語って聞かせる芸能です。大正から平成にかけて多くの新曲を創作した、新内節演奏家、岡本文弥 (1895-1996) の著書を基に、演奏音源を聴きながら、新内節の面白さに迫ります。



◇第６回　12 月 21 日木曜日　吉岡倫裕

「近代真言声明の変化」（修士審査プレゼンテーション）

大正元年に京都で生まれたオリエントレコード。その多彩なラインナップの全貌が近年の研究で明らかにされました。今回はその中から、謡曲・狂言謡の名盤を紹介します。謡文化の地京都から発信された貴重な音源を通して、近代の京都能楽界の足跡をたどります。

◇第７回　1 月 11 日木曜日　出口実紀

「田邉尚雄が巡った沖縄」

大正 11 年、音楽学者の田邉尚雄は東洋音楽研究のため沖縄へ渡り、島々の音楽・芸能と出会いました。今回のセミナーでは、田邉が行った調査行程を辿りながら、現地で触れた数々の民謡を田邉自身の録音や SP 盤の復元音源でお聴きいただきます。

◇第８回　3 月 1 日木曜日　高橋葉子

「オリエントの謡曲 SP レコードを聴く」

大正元年に京都で生まれたオリエントレコード。その多彩なラインナップの全貌が近年の研究で明らかにされました。今回はその中から、謡曲・狂言謡の名盤を紹介します。謡文化の地京都から発信された貴重な音源を通して、近代の京都能楽界の足跡をたどります。

◇第９回　3 月 22 日木曜日　薗田郁

「音曲萬歳を聴く」

漫才といえば、現在は話芸の一つに考えられています

が、かつては音楽を中心に芝居や曲弾きをみせるバラエティー豊かな芸能でした。このセミナーでは寄席で行われていた三曲萬歳や五目浄瑠璃などの音源を通じて音曲萬歳としての多様な姿を紹介します。

特別公開セミナー

2018年2月9日（金）13：00～17：00

第1部　日本の伝紐的な語り物の立体化

能の源流を想像させる芸能、幸若舞と題目立を映像で紹介し、日本の伝統的な物語がどのようなかたちで上演されつづけてきたのか、説明します。

第2部　安田登×有松遼一

能のワキは何を夢見ているのか

能の物語展開には必要不可欠な存在であるワキ。作品の後半では、舞台に座ったままでいることが多く、夢を見ているという設定の場合も多い役柄です。このセミナーでは、能のドラマの中の夢の時間について、ワキ方下掛宝生流の安田登氏、そして、同じくワキ方高安流の有松遼一氏にも登場いただき、実演も交えつつ、物語のあり方や演出などについて、自由に語っていただきます。安田氏も有松氏も、新しいドラマ（新作能など）を創出する仕事に積極的にかかわっておられます。そういったこともふくめた、能楽に対する未来の夢についても、自由に語っていただきます。

2018年2月10日（土）10：00～12：00

論語の中の「楽」、その現代的な可能性

日本伝統音楽研究センターは記章として金文の「楽」の文字を、HPや紀要などで使用しています。昨年『あわいの時代の「論語」ヒューマン2.0』を出版された安田登氏に、「楽」の文字そのもの、論語の中の「楽」そして、現代的な可能性について講釈していただきます。張曦媛氏（四川音楽学院卒業、古琴専攻）による古琴演奏もあります。

会場：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター合同研究室1（新研究棟7階）

所長サロン

今年度のテーマは「バイミュージカルな日本へ」にしました。「西洋音楽大国」日本における伝統音楽の在り方について、いろいろな方をお呼びして、探ることができました。「バイリンガル」とおなじように、「バイミュージカル」とは、自分の育った音楽文化のほかに、もう一つの音楽文化に深入りして、ある程度の能力を獲得し、活用することです。日本人の大多数にとって「母国の音楽」が西洋音楽となっている現在、日本伝統音楽への回帰にはどうすればいいのか、という問題提起が出発点でした。五回にわたってこの問いを追求しました。

＊ 2017・4・27　山本毅音楽学部教授・大学理事

所長サロン 2017 第1回　2017年4月27日（木）

ゲスト：山本毅先生（京芸音楽学部教授・パーカッショニスト）

幼稚園の頃からマリンバ教室に通い、高校では尺八とユーフォニウム、芸大受験を決意してから打楽器を始めた、という山本先生のちょっとユニークな音楽歴からお話が始まりました。学生時代には日本の打楽器にも関心を持ち、長唄囃子方の藤舎呂悦氏に入門。一時はプロの道も考えたものの、幼いころから邦楽の環境にいる人と、西洋音楽で育ってきた自分とでは「邦楽家としての感覚」に絶対的な差があると感じ、長唄の道を断念しました。そうした経験から、日本音楽と西洋音楽、二つの音楽言語を身につける「バイ・ミュージカル」について、教養として知ることは大事だし演奏にも役立つけれど、両方の分野でプロになれるとは思わない、と語られました。大学での音楽教育も同じで、日本音楽の普及とプロの養成とは別のシステムで考えるべきだ、と役割分担を説かれました。さまざまな音楽体験に裏打ちされたリアリティのあるお話で、日本音楽、西洋音楽、どちらからみても大変興味深い内容でした。

（レポート：森万由美）

＊ 2017・5・18　細川周平氏　国際日本文化研究センター教授

所長サロン　第 2 回　2017 年 5 月 18 日（木）

国際日本文化研究センターの細川周平教授をお迎えして 2017 年度第 2 回目の所長サロン。お話しは、音楽との出会いに始まり、音楽学者としてのこれまでの足取りを辿るというもの。過去の著作を振り返りつつ、バイミュージカルのお話、日系ブラジル移民について、さらに名古屋に SP レコードを聴かせるお店が出来たことなど盛りだくさんで、あっという間の 45 分でした。ドアーズやコルトレーンとの出会い、大阪万博での音楽体験といった話題も出て、細川さんの音楽的素地の一端が垣間見えた貴重な機会となりました。

（レポート：薗田 郁）

所長サロン 2017 第 3 回　“バイミュージカルな日本へ”

＊ 2017・6・22　広瀬周平氏

第 3 回 廣瀬量平先生をしのんで

6 月 22 日（木）15:00 ～ 16:30　京都芸大大学会館交流室・無料

日本近現代の代表的作曲家の一人にして、当 日本伝統音楽研究センターの創設者・初代所長の（故）廣瀬量平先生をしのび、ご子息の周平さん、および奥様の友佳子さん（故量平氏の直弟子・本学音楽学部講師）をおまねきして、トーク＆コンサートを行いました。演奏は、ピアノ友佳子さん・フルート大嶋先生・尺八長谷川道将さん。廣瀬量平の和楽器作品、洋楽器作品それぞれ 2 曲ずつおききいただきました。

まずは様々な廣瀬作品のご紹介からスタートしました。ご子息廣瀬周平氏のお話の中で、廣瀬量平先生は「基礎がなければ音楽は創れない」と自身にも学生にも厳しいほどに基礎を大切にするよう指導されていたことや、どの音楽に対しても「根っこを追いかける」という姿勢で向き合い、音楽のルーツについて探究される方であったという先生の音楽に対する考え方に触れることができました。後半では、息の楽器、魂を込める楽器として尺八作品とフルートとピアノによる作品をそれぞれ演奏いただき、和楽器と洋楽器における息遣いの表現を鑑賞し、贅沢な時間を過ごさせていただきました。（レポート：出口実紀）

＊ 2017・7・06　安田登氏

所長サロン 2017 第 4 回

2017 年 7 月 6 日（木）午後の所長サロン・公開研究会・伝音セミナーのトリプル企画レポート

所長サロン・公開研究会では、今年度より伝音センター客員教授の安田登先生をゲストに迎えてのトークセッション。休憩時間には、安田先生辞令交付式もありました。安田先生の能・朗読の話つながりでそのまま、竹内直さん案内役で群読レコードをとりあげる伝音セミナーに。

〜〜所長サロン・藤田隆則公開研究会〜〜

宝生流ワキ方である安田先生にいつもとは少し違った角度から能の魅力を語って頂こう、という企画でした。「ワキの役割とは」というお話のなかでは、言語に造詣の深い先生ならではの切り口で、境界を行き交うワキの役割が見事に解き明かされました。後半では『道成寺』の迫力あるカタリを間近で聞くことができ、またそのカタリを応用した現代文（中島敦『山月記』）の朗読もご披露頂きました。能の奥行の深さと共に普遍性をも感じることの出来た稀有な時間でした。

〜〜竹内直案内役の伝音セミナー〜平家物語の群読「知盛」を聴く〜〜

2017 年度三回目の伝音セミナー。群読とは複数の朗読者によって物語を読み進める方法。そこに佐藤慶次郎作曲のタンバリンによる簡素な音楽が加わります。レコードでは六人の朗読者がいましたが、朗読するパートは一人や二人、あるいは全員でというように適宜分けられていました。構成を担当した木下順二の言葉は、この作品が当時の時代を反映して幾分実験的に制作されていたことを窺わせてくれます。レコードから聞こえる声は、まさにその雰囲気そのままに、音楽と言葉の境界に立ち向かう人々の緊張と熱気が伝わってくる刺激的なものでした。

（レポート：薗田 郁）

なお、翌日 7 月 7 日にも引き続き安田先生を交えての公開研究会が行われました。

安田客員教授を招いての、公開研究会 2 日目。インターメディアとしての能にかんする藤田から説明をうけるかたちで、安田氏によるコメントが行われた。話題は、物語の世界と現実世界との連結、現在形と過去形の交錯に集中。休憩の後、シュメール語の専門家をまじえ、古代の文化における憑依、そして腹話術にまで話がおよんだ。最後は、東西の古代文化の思想を連結するには、謡や能の装置が有効であるという話に。質疑などをふくめて 3 時間。参加者は約 30 名。

（レポート：藤田隆則）

＊ 2017・7・20　Natalia Globukova 氏（モスクワ音楽院・国際日本文化研究センター客員研究員

所長サロン 2017　第 5 回はナタリヤ･クロブコヴァさん

モスクワ音楽院の研究員で、いまは 1 年間国際日本文化研究センターの研究員として京都西京区に滞在されています。

モスクワ音楽院では 1999 年から「日本の心 Душа Японии」音楽祭（http://www.worldmusiccenter.ru/japansoul）を毎年開催しています。音楽祭創始にともないロシア初？邦楽演奏グループ「WA-ON」が結成されました。そこで日本の現代箏曲の不思議な響きに魅せられたナタリヤさん。以来、同音楽祭の顧問を長年つとめられた岩堀敬子さん（京都市在住）について研鑽をつまれ、WA-ON メンバーとして演奏活動もされてきました。現在の滞在目的は、日本国内の東方正教会での聖歌の歌唱 / 伝承の実態を調べるため。聖歌に興味をもちはじめたのは、33 歳、正教会の洗礼をうけたときからといいます。文化・宗教統制のソ連邦時代をへて、随分と西欧化したというロシア正教会の聖歌。一方、（幕末以来の）日本の正教会では、ロシア語の歌詞を日本語に訳して歌うことの変化（シラブルのちがい）。地域の信仰として、ロシア国内

のようなセミプロ聖歌隊ではなく、お詣りの信者さん（素人さん）が歌う（ことによる伝承変化）ということが、特筆すべきことだといいます。
日本滞在も８月まで。正教会の調査のため北海道に旅立っていかれました。

図書室

利用案内

（1）収蔵資料と目録

・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展観などもおこなっています。（資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等）

・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

（2）図書室および収蔵資料を利用できる方

・本学の教職員（非常勤を含む）／学生

・調査研究のために利用を必要とされる方

（3）開室日時と休室日

・開室日時 毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時

・休室日 月・火・土・日曜日、
「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間

※その他、必要に応じて、休室することがあります。最新情報は web サイトでご確認ください。

（4）利用できるサービス

○閲覧

・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。

・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。

・複写サービスは行っていません。

○視聴

・当室所蔵の CD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

・毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時

○その他

・本学教職員（非常勤講師を含む）及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

（5）資料のデジタル化と web 公開

・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

図書室での企画

・閲覧室では図書室スタッフによる当センター所蔵資料のおすすめ本を紹介しています。

今年度は、一中節、新内節、歌舞伎音楽、歌舞伎などの本や CD・DVD を紹介しました。

来訪者

＊ 2017・5・16　Mr. Paul Hodge、ミュージカル作曲家、オーストラリア

＊ 2017・6・19　倉谷誠氏（京都市文化芸術企画係長）萩原麗子氏（京都芸術センター伝統芸能アーカイブ ‘リサーチオフィス）

＊ 2017・7・14　Mr. Daniel Walden（ハーバード大学博士課程、田中正平の研究調査）

＊ 2017・8・3　小林裕美（国際日本文化研究センター研究協力課長）

＊ 2017・9・8　小松和彦氏（国際日本文化研究センター所長）

＊ 2017・10・4　Dr. Joys Cheung, Ms. Lola Huang（台湾師範大学）

＊ 2017・11・14　ローマサピエンツァ大学　マティルデ・マストランゲロ氏、ステファノ・ロマニョーリ氏
＊ 2018・2・9、13　フランシス・ビッジ（ジュネーヴ高等音楽院教授、古楽学科長）

短期滞在者

＊ 2017·6·12－18　Dr. Jaroslaw Kapuscinski と Dr. François Rose（スタンフォード大学）
＊ 2017·8·30 ～ 12·15　Ms. Gillian Marshall（コーネル大学博士課程）